

群馬大学 地域貢献シンポジウム & 社会情報学シンポジウム 「まちで本をひらき、本でまちをひらく ～本のまち前橋にむけて～」

2023年1月27日(金) 16:15～19:11

煥乎堂書店5Fホール

主催：群馬大学 社会情報学教育・研究センター

共催：煥乎堂

後援：日本印刷学会、日本印刷技術協会

参加無料

(対面 & オンライン配信)

詳細と事前申込



プログラム

司会：柴田 博仁 (群馬大学情報学部)

16:15 – 16:20 **オープニング**

16:20 – 16:50 **講演1** 音喜多 信嗣 (八戸ブックセンター)

「八戸市を「本のまち」に

～市営書店・八戸ブックセンターの取り組み～」

16:50 – 17:20 **講演2** 橋本 薫 (株式会社まちの開発舎)

「みんなの言葉が街になる」

17:20 – 17:30 **休憩**

17:30 – 18:00 **講演3** 山村 将士 (前橋市立図書館)

「対話でひらく未来の図書館」

18:00 – 18:30 **講演4** 平田 知久 (群馬大学情報学部)

「「本としてのまち」で暮らすこと

～M・ド・セルトーの読書観～」

18:30 – 19:10 **全体質疑**

19:10 – 19:11 **クロージング**



講演 1

「八戸市を「本のまち」に ～市営書店・八戸ブックセンターの取り組み～」

音喜多 信嗣 (八戸市まちづくり文化スポーツ部文化創造推進課/八戸ブックセンター所長)

【概要】青森県八戸市では「本のまち八戸」を掲げ、民間書店を始めとした様々な施設、団体と連携をしながら、本の陳列・販売、各種企画事業を実施する、全国的にも珍しい「市営書店」八戸ブックセンターを運営している。公共施設だからこそ実現可能な、そして、今後の「まちづくり」に必要なことを、八戸ブックセンターの取り組みから紹介する。



講演 2

「みんなの言葉が街になる」

橋本 薫 (株式会社まちの開発舎 代表取締役)

【概要】

街への前向きな想いを言葉にして伝える、議論が生まれる、共感が行動に移ることで場に活気が生まれる。

みんなの言葉が街になる。

私たちが暮らす地域という舞台の顔になる場所、それが街。

前橋が進める「めぶく街づくり」について

みなさんと考える時間にしたいと思います。

講演 3

「対話でひらく未来の図書館」

山村 将士 (前橋市立図書館 司書・学芸員)

【概要】まちを、まち全体を図書館に! 「敷島。本の森」 「森と空と水の移動図書館」といった図書館をまちへ開いていく取り組みを紹介します。また、「対話による多様な学びがある知のひろば」をビジョンに掲げ、対話によって図書館をひらいていくための図書館新本館への動きも紹介。みんなのための未来の図書館について語ります。



講演 4

「「本としてのまち」で暮らすこと ～M・ド・セルトーの読書観～」

平田 知久 (群馬大学情報学部 准教授)

【概要】この講演では、都市で何とか生きる人々の生活のあり方を、一つの「技芸」として捉えたM・ド・セルトーにとっての「読書」と「都市(まち)」との関係についてお話ししたいと思います。

セルトーにとって、都市は色々なことが描かれている本のようなものでした。講演では、このようなイメージからどのようなまちづくりができるのか、あるいはこのイメージを前橋に重ねるときにどのようなまちが目指されるべきなのかを議論します。